

牧草用輸入ラップフィルムの 実用性確認試験

JAひろお

中川 精一



9月11日 ラッピング作業



9月11日 ラッピング後



11月13日 試験品開封前



11月13日 試験品開封直後



11月13日 慣行品保管時



11月13日 慣行品開封後(数日経過)

試験目的

牧草用輸入ラップフィルムの実用性確認試験

試験作物 及び品種

牧草

試験資材 及び数量(規格)

グラスワインド(黒)(厚さ0.025mm×幅500mm×長さ1800m) 3本

慣行資材

ファームベール(白)(厚さ0.025mm×幅500mm×長さ1800m)

資材使用期間

9月11日～11月13日

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品と同様の機械の設定で作業を行い、2個目の牧草を巻くときに1度切れたが、簡単な機械の調整をすることで切れがなくなり、その後は問題なく作業を継続できた。ただし、色の差にも起因するが、試験品は強度や伸びが強く感じられ、巻き終わりごとに機械の刃でラップを切る際に切れないことがあったため、若干、作業効率は落ちる。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

保管時に裂けや穴が空くこともなく、開封してもカビが生えていないため問題ない。飼料分析は行っていないが、慣行品と比較しても遜色ないと思われる。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：他メーカーのラップフィルムに比べ、安価であり、品質にも問題ないため、年間の使用量が多い農家にとっては、大きな優位性があると考えられる。今回の試験では、慣行品が3本で27～30個の牧草を巻くことができるのに対し、試験品は33個巻くことができたため、伸びに強いと考えられる。

【問題点】：前述したとおり、1個のロールの巻き終わりごとに機械の刃でラップを切断するのだが、スムーズに切れないことがあった。

モニター感想

慣行品と比べても、大きな品質の差は感じられず、問題なかった。長期保管(越冬)しても縦裂けがなく、機械との相性を選ばなければ、良品質なラップフィルムだと言うことができ、普及すると思う。

JA担当者の感想(生産資材課 千葉課長)

組合員によっては、安価な資材が良いという人や、高くても高品質な資材が良いという人など様々ではあるが、今回試験した資材は安価であり、安定的に供給できれば、組合員や農協にとってメリットがあると思う。

今後の使用について

農協で徐々に取扱していきたい。

将来希望する資材について

慣行品と品質が変わらない、安価な資材。

1 クリントート

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 滑雪効果

5 生分解性マルチ

6 その他

7 酪農資材